



INDONESIA MISSION



新ホームページ
スマホ対応

発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 TEL：0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP：<https://indonesiamission.info/>



工作して完成した作品を嬉しそうに見せるボルネオ幼稚園の子どもたち

西カリマンタン宣教のためにお祈りと支えをありがとうございます。

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます」(マタイ24:14)。まだ先の事、と思っていましたが、今世界中の人々は動いており、御言葉の成就が早められています。

今年5月、私はスウェーデンに行きましたが、人口の20%を大きく超えて世界中から移民・難民が押し寄せていました。そして日本では、外国からの特定技能人材が増え続けています。時代の大きな変化の中で、宣教の主の熱心を感じながらなすべきこと…特に“インドネシアの人々と共に”を教えていただきたいと思います。続けてお祈りをお願いいたします。



スウェーデンにて

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

ブンカヤン・ベラカ寮 日本語語学学校ミーティング

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

7月半ばにブンカヤン・ベラカ寮を訪ねました。目的は、寮での日本語教室開校の可能性を探るためです。インドネシア国内にすでに12の日本語学校を開いて、約500人の人材を日本に派遣している某クリスチャン事業所の方2名が視察に来られ、それに同行させていただきました。行って分かったことは、日本に「特定技能人材」を派遣するための日本語学校が、西カリマンタンも含めてインドネシア各地にどんどん設立されていること。そして日本に行くインドネシア人が急増していること（日本ではベトナム人に次ぐ第2位）。日本は深刻な人手不足（この5年で約35万人が必要）で、日本と相性の良いインドネシア人が必要とされていること、です。

以下は、今回同行した事業所が派遣した日本の福祉現場からの「声」です。「日本の福祉の多くは、キリスト教の影響を受け、その精神の中に様々な制度や施設が立てられてきました。しかし、日本の人口減少に伴い人材が不足する中で、福祉に関わる人々の心を育てていく難しさがあります。そうした中で、インドネシアのクリスチャンの皆様が日本に来て働いて下さることは、人数が満たされるだけでなく、その心も相乗効果で日本の福祉の現場が満たされていくと思います。」ベラカ寮が「宣教のために用いられるように」、そうずっと祈ってきました。西カリマンタンの必要の

ため、日本の必要のために、神様のグローバルな宣教の御手が時代の中で動いているように感じます。



ミーティングに参加した方々と



エンティコン・グロリア寮I ユースリバイバル集会

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

去る6月10日、ATI神学校(アンジュンガン)より、ディナール先生と神学生チームがエンティコン・グロリア寮に来てくださりユースリバイバル集会がもたれました。“主を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。”箴言1:7の御言葉から、「私は主に従います。揺るぎません」というテーマでディナール先生が語られ、これからの人生、神様にまっすぐ従っていくようチャレンジが与えられました。スルートウンバワン・グロリア寮IIからも、舎監ヘルマヌス家族と中学生たちがバイクで駆けつけて参加しました。一堂に集まってささげる礼拝は臨在で覆われ、祝福豊かでした。



参加したグロリア寮IIの子どもたち



ATI神学校の特別賛美



グロリア寮の特別賛美

スルートウンバワン地域 グンジュマ村ボルネオ幼稚園からの便り

ボルネオ幼稚園園長 ネリ



卒園生と教師のウェリ、ネリ、レシ(左より)

ボルネオ幼稚園園長として、皆さんのお祈りとご支援を心から感謝致します。私を信頼して、私の故郷である村グンジュマ村で、この幼稚園を任せて下さってありがとうございます。園長として諸手続きを進める中で、今日まで多くのことを学ばされてきました。諦めそうになった時は、イエス様がいつも多くの人を通して(皆さんのような、日本からの祈りの支援者を通して)解決の道を開いて下さいました。

私たちは、皆さんのご厚意にお返しすることは出来ませんが、皆さんの健康、平安、平和、豊かな祝福があるように、そして何よりも神様への強い信仰のためにお祈りしています。

ボルネオ幼稚園の認可手続きですが、皆さんが思っているようには捗らずに申し訳ないです。でも私たち教師は出来る限りの努力をしています。箴言23:18にあるように、私たちには将来がある、そして希望は消えることがないと信じています。皆さんの祝福をお祈りしています。

“あなたに確かに将来がある。
あなたの望みは断たれることはない。”
箴言23:18

カリマンタン島西部地図



●族伝道の働き

“神である主の霊が私の上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついたものを癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げるために。”(イザヤ書61:1)この御言葉と「●族に福音を伝え、イエス様の弟子とする」というビジョンは益々強くなり、私たちを励まします。たとえ●族は部族主義が強く、宗教的・文化的狂信主義があり、さらに闇の力という困難の中にあつたとしてもです。宣教が妨げられることはあります。しかし、個人、家族、教会の多くの祈りにより、神様の霊が働いて、福音宣教は前進し●族を変えていくと私たちは信じています。



訪問先での様子

ミッションハウス タヨンナ

●族に手を差し伸べるために、神様が私たち家族を用いて下さっていることを感謝しています。私は2020年から、この部族への伝道にフルタイムで専念することにし、多くの祈りを積むこと、●族との友情を築く事からスタートしました。

彼らと親交を深めていくうちに、彼らが多くの宗教的な規則に縛られ、心の空虚さや困難な人生を経験していることを発見し始めました。そのような中で、私たちは彼らを訪問して共に祈ることや、生活必需品を提供することによって、また、失業や経済的困窮があれば仕事を見つける手助けをすることによって、彼らの問題に役立ててくださるキリストの愛を表しました。

彼らは徐々に、キリストの愛が自分たちの生活に流れ込んでいることを感じ始め、真のクリスチャンの生き方と、それまで従っていた宗教とを比較し始めます。その時に、私たちはイエス様の福音をはっきりと伝え始めました。信じない人もいましたが、まだ少数ではありますが、密かにイエス様を主であり救い主であると信じる決心をした者もいます。ハレルヤ！私たちは彼らが主イエス様を信じるよう励まし続け、キリストの弟子となるよう少しずつ弟子訓練をしています。どうぞ続けてお祈り下さい。

Shalom! 主の偉大なる御名を賛美します。インドネシアへの思いが与えられてから10年。信仰によって新たに燃やされ、昨年、アンテオケ宣教会のキャンプでお会いした山中敬子さんより声を掛けていただき、初めてバリ島・カリマンタン島・ジャカルタへミッショントリップとして訪問しました。このお話をいただいてから、自分なりに歴史や文化・民族性について調べてはいたものの、この時ほど「百聞は一見に如かず」ということわざを思い知らされたことはなかったと思います。ポンティアナクからエンティコンに向かった日は、ラマダン明け直後で、道路にはモスクに入りきらない多くのムスリムの方たちが至る所で礼拝しているところでした。私は車窓からそのような人々の信仰をみて、「自分は真理を知っている」という傲慢な思いになりました。その時主はお語り下さったのです。「わたしはこの民を愛している。このカリマンタンの島を愛している。人々が立ち返るのを待っている」この異教徒さえも、主の憐れみの中にあることを教えられました。この時、言葉では表現することが出来ないほどの主の臨在に触れ、大きな愛を受け取りました。と同時に、なんとも言えない不気味な悪の力が襲って来るという恐ろしさも体験しました。日本では考えられない文化。しかし異教徒であろうと神と共に生きるという人々の姿に、人間は神の手によって創造された者であることの証だと思いました。ポンティアナクからエンティコンに到着するまでの間、とにかく目に映るすべてのものに圧倒され、主と共に旅が出来ることの喜びと楽しさでいっぱい気持ちになりました。

エンティコン・グロリア寮Iでの滞在では、短い時間でしたがボルネオ幼稚園の責任者でもあるネリさんにもお会いすることが出来ました。私も長年保育士として働いてきたので、ネリさんとは保育のことで話が弾みました。私は僅かですが、小さな子どもでも簡単に作って遊べる工作を用意して行きました。私たちはその工作と一緒に作りながら、子どものように遊びました。反省点もあります。それは紙への湿度対策です。日本とは比べ物にならないほど湿度が高いので、対策は必須です。今回、幼稚園訪問は出来ませんでした。今回は是非子どもたちと一緒に遊びたいと思っています。



ネリと一緒に工作

グロリア寮IIを後にしてATI神学校へ。そしていよいよ宣教師タヨナさん・ドライバーのエディさん・山中さんの4人で●族訪問が始まりました。3日間かけて17軒ほど訪問をさせていただき、訪問先では福音とともに癒しの祈り、とりなしの祈りをしました。中には私たちの訪問を受け入れないという家庭もありました。しかし共通して言えることは、どの人々も「神へ祈りを捧げ共に生きる」ということでした。福音の漸進のため、どんな時も力強く語る宣教師タヨナさんと数日間寝食を共にし、その姿から改めて主への従順さと喜びを教えられました。



モスク前で礼拝するムスリムの人たち

さて最初はスルートウンバワン・グロリア寮IIに到着。ヘルマヌスさんの案内で、村を散策していた時でした。私たちが散策していると、とある庭先に一人のご婦人が辛そうに座っており、山中さんが声を掛けると膝が痛いのだとか。痛みのある膝に手を置いて一緒に癒しの祈りをしました。また散策を続けていると、数件の玄関先に蜂の巣をスライスしたようなものが飾られていることに気が付きました。帰ってきてからこのことについて聞いてみると、魔除けであることが分かりました。巣には入口が無数にあり、悪霊がどこから入っていいのか迷うのだと話してくれるヘルマヌスさんの困惑した表情から、日々の生活の中に悪との戦いがあることを物語っているように見えました。キリスト教の村であっても、人々の中にはアミニズムの信仰が混ざり込んでおり、完全なる勝利者であるイエスキリストへの信頼と信仰を伝えていくことの大切さを教えられました。



訪問先で癒しを祈った様子

訪問した家で家族と記念撮影



さて旅の最後の日の朝、3週間を振りいろいろな思いが込み上げてきた時、この御言葉を思い出したのです。

ヨナ4:11
「ましてわたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには、右も左も分からない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。」

救いの福音を聞いたことのない多くの人たちがこの国にいるなら、私たちは諦めることなく宣べ伝え続けなければならないと強く思われました。



飾られていたハチの巣 (赤丸の部分)

－ 祈りのリクエスト －

ATI神学校

- ◎神学校の経済のために
今年の新生は13名、Z世代です
- ◎宣教師館の雨漏りのメンテナンスのために
原因解明と費用のために(予算約25万円)

中高生寮(3つの学生寮共通)

- ◎子ども達の教育、霊性、生活指導が良くなされていくように
- ◎指導する舎監たちの守りと霊性のために

エンティコン・グロリア寮I

- ◎現在寮生は70名、乾期も十分な水を確保できるように
- ◎舎監リコさんのお母さんが召されました(55歳)
ご家族に慰めがあるように

スルートゥンパワン・グロリア寮II

- ◎舎監夫人のサンティが9月に第3子を出産します
母子ともに守られるように
- ◎1年の伝道実習生サンティ(ATI神学校4年生)が守られ用いられるように

ブンカヤン・ベラカ寮

- ◎寮の日本語教室(日本への就職のため)が地域の経済のため、また日本の宣教に繋がるように。学生と教師が与えられるように
- ◎インターネット環境が整えられるように

ボルネオ幼稚園

- ◎幼稚園の土地・建物が与えられるように
政府(サンガオ県)の認可手続きが進むように
- ◎園長のネリ、教師のレシとウェリーに神様の助けと知恵が与えられるように

奨学生(中高生寮出身者)

- ◎看護師ドノがバダット・ラマ村診療所開設に向けて一歩一歩前進できるように
- ◎スインが大学院を卒業しました
エンティコンの教育大学で教師になります

プニティ・アナスタシス教会

- ◎フレンキー牧師、スシー夫人が学校で教えている華人の生徒たちに福音が伝わるように
- ◎教会員の霊的成長と祝福のために

沿岸部族への働き

- ◎エズラさん家族は、親族にムスリムに戻るよう強制され、今夫婦が離れ離れです。エズラさんの信仰が強められるように
- ◎タヨンナー家の健康のため、必要が満たされるように
3人の子どもたちの身体的、霊的成長のために
- ◎良い友人となり、福音を明確に伝え、聞く人の心が開かれるように

その他

- ◎西カリマンタンに宣教師が遣わされるように
- ◎現地の毎月の運営費用が満たされるように

東京グレイス福音教会の関わり

東京グレイス福音教会
石坂 牧子

東京グレイスでは、チームで今までに四度カリマンタンを訪問しました。毎回、対象が異なる奉仕をさせて頂きました。チームが最後に西カリマンタンを訪問したのは、17年6月です。タヨンナ師は毎週ATI神学校の数名の学生と、バイクで●族の住む沿岸地域に伝道に出かけていましたが、ある時その途中のムスリム★族のコミュニティ村に「クリスチャンがいるらしい。」との情報を得ました。それでその★族のGさん家族を捜しに行くところから始まったというミッションに 私たちも同行しました。(現在はこのGさん宅が教会となり毎週礼拝が捧げられています!)その家族は、村のムスリムから迫害を受けて 孤立していました。夫は独身の時にイスラム教の家庭に育ちながらも主イエスを信じました。しかし、家から大きな迫害を受けて信仰から離れていましたが、タヨンナ師に導かれていました。



赤ちゃんのために祈る様子

彼は苦しみの表情を浮かべながらもポツポツと自分の信仰の歩みを証し始めました。私がマタイ書からみことばを語り、その後ハッキリと「もう一度、イエス様を信じます。」と告白しました。晴れ晴れとした彼の表情から信仰の回復が本物であることが明らかでした。奥さんは素直な柔らかい人柄のようです。その壮年夫婦には乳飲み子がおられ、献児式を行ないました。嵐のような雷雨で裸電球も消えた中で進んだ神のみわざでした。

帰国後、バイクが壊れたと聞き、教会から送金して良いものを購入してもらいました。東京グレイス福音教会の思いは、タヨンナ師夫妻が宣教団体や教会の支援を受けずに活動している現状を支えたいと願い、持続して献金をささげています。毎週の早天祈り会で宣教報告から祈り課題を祈ります。先生ご夫妻と三人の子どもたちの必要を祈ります。皆さん、どうぞ、機会を得て一度は西カリマンタンを訪問してください。宣教師と一緒にこの素晴らしい福音を届けましょう。



停電のため持ってきたライトで記念撮影

ムスリム●族伝道に対する障壁

- ①●族に届いていく為の強力なチームがまだ無い
- ②西カリマンタンの●族のいる面積は広いため交通費が高額で資金が不足している
- ③●族は異なる宗教の人々との交流に対して非常に閉鎖的である
- ④●族は闇の力とシャーマニズムを今でも固守しているため福音に対して心を開くことが困難である